



(深谷)

遺跡の調査は上武道路
(国道一七号線、バイパス)建設
に伴うものであり、尾島町
内では一九八五年から一九

群馬・安養寺森西遺跡
あんようじもりにし

- 1 所在地 群馬県新田郡尾島町安養寺
- 2 調査期間 一九八八年(昭63)四月〜一〇月
- 3 発掘機関 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 4 調査担当者 飯田陽一・関根慎二・樋口伸男
- 5 遺跡の種類 集落跡・畑跡ほか
- 6 遺跡の年代 六世紀〜一九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

安養寺森西遺跡は東武伊勢崎線太田駅の南西約八km、東流する利根川左岸の畑作地域に位置している。遺跡付近の地質および地形は、

台地形成層の上に利根川の
氾濫堆積物が厚く覆い、自
然堤防に似た低台地となっ
ている。付近の標高は三三
m前後である。

八八年まで、延長約一・三kmの範囲の全域で断続的に行なわれた。現状は道路となり、遺跡は湮滅している。
検出された遺構は時代・種類ともに多岐にわたるが、主なものは古墳時代の畑、奈良・平安時代の集落、中世館跡および中近世の井戸群などである。

井戸は総数一三基で、このうち木製品が出土したのは一九世紀前半の井戸である。「蘇民将来」の護符のほか、櫛、漆塗椀、曲物、井桁、果核などが出土している。肥前系磁器が多量に共存しており、これを年代推定の根拠とした。

一九九三年度の後半より整理作業に着手し、翌年度に報告書刊行の予定である。

8 木簡の积文・内容

- | | | | |
|-----|-------------|-----|--------------|
| (1) | ・「□民」 | (2) | ・「蘇民」 |
| | ・「□来」 | | ・「将来」 |
| | ・「之子」 | | ・「之子」 |
| | ・「孫也」 | | ・「孫也」 |
| | 33×8×10 061 | | 39×14×13 061 |

(3)

・「ッ」

・「みん」

・「志やう」

・「らい」

・「し」

・「そん」

・「□」

・「□」

29×21×20 061

(4)

・「ソ」

・「ミン」

・「シヤウ」

・「ライ」

・「ノ」

・「子」

・「ソ」

・「ナリ」

25×16×16 061

(5)

・「□」

・「民」

・「□」

・「来」

・「子」

・「□」

・「乃」

31×24×24 061

(6)

・「□」

・「将」

・「来」

・「之」

・「子」

・「ソ」

・「ナリ」

29×17×16 061

9 関係文献

六本の護符が同一の井戸の下層から一括出土した。すべて材の中心を使用している。(1)(2)は四角柱、(3)(6)は八角柱でいずれも上辺を尖らせている。(1)(5)は中央に貫通した孔があり、棒状具を装着した痕跡が認められる。上下両面を除き周囲の全ての面に墨書がある。墨痕は比較的鮮明であったが、出土後の退色もあり判読は赤外線写真によるところが大きい。

〔群馬県埋蔵文化財調査事業団『年報八』(一九八九年)〕

(飯田陽二)

